

事務局報告

第92回(2023年度第1回)幹事会 議事要録

日時: 2023年1月8日(日) 15:00 ~ 18:00

場所: Zoomによるオンライン会議

出席者: 能城会長, 村上庶務幹事, 上條庶務副幹事, 西内広報幹事, 真邊行事委員長, 工藤編集委員長, 藤井自然史学会連合担当

報告事項

1. 村上庶務幹事より会員動向および会費納入状況: 2022年11月30日現在の会員数が報告された(名誉会員2名, 賛助会員1社, 一般会員244名, シニア会員31名, 学生会員26名, 団体会員4団体)。2022年9月1日からの増減は、学生会員からの区分変更(学生会員1名), 入会者1名(学生会員1名), 退会者5名(一般会員4名, シニア会員1名)であった。会費納入状況について、長期未納者には幹事より会費納入を働きかけたこととした。
2. 植生史研究の編集状況について: 工藤編集委員長より第32巻1号が12月に刊行されたことが報告された。第32巻2号は審査中で引き続き投稿も呼びかけることにした。
3. 第51回談話会の準備状況について: 真邊行事委員長より年度内で葉化石の同定講習会を行うべく、国立科学博物館への打診について報告されたほか、実施困難な場合に備えて、山梨での現地開催に向けて調整が進められていることが報告された。
4. 第38回大会(鹿児島)について: 真邊行事委員長より鹿児島大学での開催について日程(2023年12月2・3日), 大会実行委員会委員(実行委員長: 吉田明弘氏), 大会内容案, 開催形式について報告された。日本花粉学会との合同大会として行い, 開催形式は基本的に対面形式とし, オンライン参加者は映像配信を主とすることが報告された。
5. 日本学術会議からのアンケートへの回答案について: 村上庶務幹事より回答案が報告された。
6. 博物館法改正に伴う自然史学会連合から声明, 要望を出す件について: 藤井自然史学会連合担当より参加学協会内における意見のとりまとめができなかつたため, 発出を断念したことが報告された。

審議事項

1. 今後の編集体制の検討: 次期会計・庶務幹事への就任者が内定し, 編集委員長については引き続き審議することとした。

2. ML投稿記事掲載について(広報): 情報告知などの学会MLの運用方法について、月末でまとめて、一括配信する案が提案された。大会・談話会に関する4回の情報送付を除く、情報告知は8回を均等に割り振ったスケジュールで配信し、それ以外の急な情報はHPに掲載することが了承された。
3. 学会HP(植生史研究PDFの掲載, フォロワー)について(広報): 現在、J-STAGEとHP両方に植生史研究PDFを掲載しているが、今後HPではJ-STAGEにリンクを貼り、J-STAGEに掲載しない情報のみを掲載する点が了承された。また、フォロワーの機能について:個人情報保護の観点から廃止する旨が了承された。なお、積極的に利用されている方については個別連絡する。
4. 奨励賞の方針について: 奨励賞に関する内規改正は行わず、審査委員会においては、内規第10項に従い、該当なしをできるだけ避けるよう申し送りする。
5. 内規改正の方法について: 内規改正の方法について項目によって承認手続きが異なる点について、内規を整理し、特に賞関係については統一し、2024年度評議員会・総会に諮ることとした。
6. 会員名簿の発行形態と作成手順について: 作成手順について、名簿調査票の項目を確認し、会員名簿に掲載する項目は会員に選択してもらうことが了承された。発行形態については冊子体を廃止し、オンライン公開とし、①HP上の会員限定公開のマイページを作る、②PDFにパスワードをかけて、会員のみにパスワードを送付する、の2案が提案され、それぞれ見積を取ることになった。
7. 会長・評議員選挙について: 会員数の減少に伴い、選挙公示日時点の会員の人数を確認した上で、その数に応じて評議員の定数を4から3に変更することが了承された。選挙管理委員長の選出と選挙日程の調整、開票会場の候補について上條庶務副幹事が検討し、メールで諮ることとした。

第93回(2023年度第2回)幹事会 議事要録

日時: 2023年4月13日(木) 18:00 ~ 19:00

場所: Zoomによるオンライン会議

出席者: 能城会長, 村上庶務幹事, 上條庶務副幹事, 西内広報幹事, 真邊行事委員長, 浦行事副委員長, 工藤編集委員長, 藤井自然史学会連合担当

報告事項

1. 会員動向: 2023年3月31日現在の会員数が報告さ

れた（名誉会員2名、賛助会員1社、一般会員241名、シニア会員30名、学生会員22名、団体会員4団体）。2022年12月1日からの増減は、入会者3名（一般会員2名、学生会員1名）、退会者8名（一般会員7名、学生会員1名）、逝去1名であった。山川会計幹事より会費納入状況について、会費の納付率はおおむね7～8割で、とくにシニア会員の納付率が高いこと、未納者にはメール送付時に呼びかけていく必要があることが報告された。

- 植生史研究の編集状況について：工藤編集委員長より第32卷2号が刊行に向けて準備中であることが報告された。
- 第38回大会および第51回談話会の準備状況について：真邊行事委員長より大会準備状況について報告され、来月には会員に日程等についての大会第一報を送る準備を進めていくことが報告された。第51回談話会として大会後に巡査を行うことが報告された。
- 会員名簿作成の準備状況について：村上庶務幹事より今年度作成予定の名簿の発行方式について報告があり、事務局からの見積を比較した結果、PDFにパスワードをかけて学会ホームページ上に置き、会員のみにパスワードを会誌発送時に同封する方式とすることが確認された。
- 会長および評議員選挙の準備状況について：5月15日付で公示し、選挙管理委員会（高瀬克範選挙管理委員長）により行うことが報告された。

審議事項

- 今後の編集体制の検討：7月に選挙結果が出たのち、次期会長のもとで編集体制について引き続き審議することとした。
- 植生史研究バックナンバーの価格改定について：植生史研究第29卷第1号（2021年2月発行）が発行から2年経過したため価格を改定して1冊500円で販売し、ホームページ上でPDFを公開することについて、承認された。
- 次号ニュースレターについて：次号ニュースレター（No.59）の内容について審議し、第38回大会案内の第1報と第51回談話会の案内、シニア会員の案内、会費納付の案内、国際学会の参加費助成アンケートを掲載することとした。

第94回（2023年度第3回）幹事会（新旧合同）

議事要録

日時：2023年10月11日（水）18:00～21:00

場所：Zoomによるオンライン会議

出席者：能城会長、百原新会長、村上庶務幹事、上條新庶

務幹事、山川会計幹事、佐々木新会計幹事、西内広報幹事、渋谷新広報幹事、真邊行事委員長、浦新行事委員長、工藤編集委員長、吉田新編集委員長、大山新編集副委員長、藤井自然史学会連合担当

報告事項

- 会員動向（庶務）：2023年9月1日現在の会員数が報告された（名誉会員2名、賛助会員1社、一般会員240名、シニア会員30名、学生会員21名、団体会員3団体）であった。2023年4月1日からの増減は、退会者（一般会員2名、団体会員1団体）、学生会員からの区分変更1名、正会員への区分変更1名であった。
- 会費納入状況：会費納入状況が報告された。
- 植生史研究の編集状況について：工藤編集委員長より第32卷2号が原稿の募集中であることが報告された。
- 第38回大会（鹿児島）、第51回談話会について：真邊行事委員長より対面方式にて行う第38回鹿児島大会の準備について報告され、日本花粉学会との共催で行うにあたっての調整の状況や、第51回談話会として行う鹿児島巡査の準備状況が報告された。
- 会長・評議員選挙結果について：上條第14期庶務幹事より2023年6月30日の第14期会長選挙・評議員選挙の結果が報告された。投票者総数82人（選挙権者総数293人、投票率28.0%）。会長百原新氏、評議員江口誠一氏、佐々木由香氏、那須浩郎氏が当選。なお、投票率は例年よりも上昇した。
- 第14期役員について：村上庶務幹事より下記、第14期役員が報告された。なお、行事副委員長については、新旧委員長で調整中と報告された。
会長：百原新、評議員：江口誠一、佐々木由香、那須浩郎、幹事：上條信彦（庶務）、佐々木尚子（会計）、渋谷綾子（広報・渉外）、編集委員会：吉田明弘（委員長）、大山幹成（副委員長）、行事委員会：浦蓉子（委員長）、自然史学会連合担当：藤井伸二（2024年3月まで）
- 第7回論文賞および第6回学会賞について：村上庶務幹事より学会賞は4月末日の締切を過ぎても応募がなかったため、該当なしとなった。また、第7回論文賞を次の論文に授与することが決定された。
百原新・工藤雄一郎・三宅尚・中村俊夫・門叶冬樹・塚腰実：Diversity of temperate flora at the Tado site, central Japan, during the last glacial stage, reconstructed from the Dr. Shigeru Miki collection（三木茂博士採集の三重県多度産標本から復元した最終氷期の温帯性フローラの多様性）（第29卷第1号：53–68）
- 名簿発行準備状況について：村上庶務幹事より会費請求書類とともに発行案内（フォームへの入力案内）を百

- 原会長名で発送する点と、名簿データ公開方式について、会員ページを設けて掲載し、その際に名簿にロックをかけ、会員にパスワードを通知することにすることが確認された。
9. 学会運営改善の経過について：村上庶務幹事より目標③：経費節減の検討のうち「会員名簿の電子媒体化を検討する」に係り上記8. 名簿の電子媒体化を実施中であることが報告された。
10. MLの発行方式について：西内広報幹事より現在不定期発行中のMLを、大会・談話会などの告知以外をできるだけ定期的に発行する旨が報告され、現在MLは12回分で契約しているが、大会・談話会などの告知分を含め、次回の学会事務局との契約更新より最大16回分確保していくこととなった。

審議事項

1. 次号ニュースレターの内容について：現在作成中であり、会費の請求・名簿の連絡と合わせて、大会案内とともに郵送する。大会最終報は11月中旬に発行することが了承された。
2. 第52回談話会・第39回大会について：第52回談話会は山梨または国立科学博物館で、第39回大会を学習院女子大学で調整中である旨が報告され、了承された。
3. 奨励賞選考にあたっての申し送りについて：奨励賞は若手育成の面を考慮して、今後の奨励賞審査にあたっては「該当者無し」とは極力しないことを堅持するよう、第13期幹事会より申し入れることが了承された。
4. 内規の改正（内規改正手続）について：改正手続きについて、顕彰に関する内規は評議員会で、シニア会員・賛助会員に関する内規は総会で改正を承認する方式とすることを総会で協議することとし、内規についてその公開を含めて、他学会例を参照するなど内容を精査することを申し送りすることにした。
5. IPC/IOPC2024への学会参加費補助について：参加申し込みの時期が10月のため、10月のMLで告知することにした。2件程度を限度に次回大会で補助を実施する。金額は最近の物価上昇に合わせ、例年1件5万円しているが、助成金額の引き上げを会計で調整することが承認された。また助成対象者は『植生史研究』に研究内容について寄稿するなどの条件を付したほうが良いという意見が出された。
6. バックナンバーの在庫管理とHPでの表示について：現在、10箱分近いバックナンバー在庫があるため、総会に諮ったうえで永久保存分各2冊とし、その他については機関への寄贈や大会での配付を実施し、将来的にはJ-Stage掲載分から処分していく方向で進めることが了承された。

- された。
7. 学会関係資料のアーカイブ化について：紙ベースで伝承されてきた書類を仕分けし、重要性を複数の立場から検討したうえで保存期間・保存方法を検討して、個人情報を含むものはシュレッダーにかけるなど留意のうえで適切に廃棄を進める方向で評議員会・総会に諮ることが了承された。なお、会員名簿など会の歴史や会員の顕彰に関わる一次資料を「永久保存」にしたほうがよいと意見が出された。

第95回（2023年度第4回）幹事会（新旧合同）

議事要録

- 日時：2023年12月1日（金）15:00～18:00
場所：鹿児島大学法文学部1号館2F、第6演習室
出席者：第13期：能城会長、村上庶務幹事、山川会計幹事、真邊行事委員長
第14期：百原会長、上條庶務幹事、佐々木会計幹事、渋谷広報幹事、浦行事委員長

報告事項

1. 上條第14期庶務幹事より総会議長推薦者について志知幸治氏を幹事会として推薦することが了承された。
2. 山川第13期会計幹事より会費の長期滞納による会員の除名について、8名が該当する旨が報告され、納入を催促していくことが確認された。

審議事項

1. 評議員会・総会資料の読み合わせを行いつつ、以下2～6が審議された。
2. 評議員会・総会資料「別途会計について」：収入が合わない現状と経緯が山川第13期会計幹事より説明された後、佐々木第14期会計幹事よりスライドを用いてその原因について補足説明がなされた。佐々木幹事より原因究明のためのWGの立ち上げが起案され、これが了承された。
3. 広報・渉外について：学会マーリングリストを使った情報配信を、各月ペースで行っていくことが確認された。
4. 会計監査について：井上淳氏を推薦することが了承された。
5. 内規の改正について：確認したところ、内規の決定日と施行日について、各内規によって不統一のため、表現を統一していく方向となった。
6. 第39回日本植生史学会大会について：2024年12月に学習院女子大学（東京都）において開催することとなった。
7. 2024年度予算案について：国際会議への若手助成の

応募に関し、近年の物価高対応や応募意欲増進のため、助成金額を増やし1名14万円を計上することにし、これが了承された。

2024年度評議員会 議事要録

日時：2023年12月1日（金）19:00～21:00

場所：Zoomによるオンライン会議

出席者：江口誠一、那須浩郎、佐々木由香 評議員

第13期：能城会長、村上庶務幹事、山川会計幹事

第14期：百原会長、上條庶務幹事、佐々木会計幹事、渋谷広報・渉外幹事、浦行事委員長

報告事項

- 2023年度の事業報告および決算報告・会計監査報告（総会資料）を承認した。主な案件は以下の通りである。別途会計について、収入が合わない現状と経緯が、山川第13期会計幹事より説明された後、佐々木第14期会計幹事よりスライドを用いてその要因について補足説明がなされた。
- 2024年度事業計画の幹事会案を審議し、承認した。主な案件は以下の通りである。
 - 広報について、学会マーリングリストを使った情報配信を、各月ペースで行っていくことが確認された。
 - 助成公募については積極的な応募がなされるよう広報を強化することが確認された。
 - 第13回奨励賞審査の結果が該当者なしとなっているため、積極的な応募がなされるよう推薦人への働きかけ強化を進めていくことが確認された。
 - 賞関係の内規の改正は、総会ではなく評議員会での承認で行うことができるよう改正し、会員の特典や広告掲載に関わる内規は総会の承認を得るものとした。さらに、従来の内規では手続きに関する条文が不統一のため、表現を統一することが報告された。
 - 幹事会より別途会計に関する原因究明のためのWGの立ち上げが起案され、これが了承された。
 - 2024年度予算案について、国際会議への若手助成の応募に関し、近年の物価高対応や応募意欲増進のため、助成金額を増やし1名14万円を計上することにし、これが了承された。

2023年度総会議事要録

日時：2023年12月2日（土）16:50～17:50

場所：鹿児島大学稻盛会館

議長：志知幸治

I. 報告事項

1. 2023年度事業報告

1-1. 庶務

- 会員動向（2023年9月30日現在）：名誉会員2名、賛助会員1社、一般会員239名、シニア会員30名、学生会員19名、団体会員3団体
- 前年度比：名誉会員±0名、賛助会員±0社、一般会員-11名（入会+2名、シニア会員への種別変更-1名、学生会員からの種別変更+3名、退会-15名）、シニア会員±0名（退会-1名一般会員からの種別変更+1名）、学生会員-5名（入会+1名、退会-3名、一般会員への種別変更-3名）、団体会員-1団体
- シニア会員を募集し、応募のあった1名の会員について承認した。
- 第14期会長選挙および評議員選挙を実施した（選挙管理委員長 高瀬克範）。第14期会長に百原 新氏、第14期評議員に江口誠一氏、佐々木由香氏、那須浩郎氏が選出された。
- 第14期役員の編成を行い、庶務幹事を上條信彦氏に、会計幹事を佐々木尚子氏に、広報・渉外幹事を渋谷綾子氏に、編集委員長を吉田明弘氏に、同副委員長を大山幹成氏に、行事委員長を浦 蓉子氏に、自然史学会連合担当幹事は藤井伸二氏にそれぞれ委嘱した。
- 2023年度評議員会を2022年9月28日にZoomによるオンライン方式にて、総会を10月2日に奈良文化財研究所平城宮跡資料館：奈良市でTeamsによるハイブリッド方式にて開催した。
- 幹事を2023年1月8日、4月13日、10月11日に、いずれもZoomによるオンライン方式にて開催した。
- 2023年度策定の学会運営改善案をうけて、学会運営の改善を進めた。
- 会員名簿の発行方式をPDFとし、PDFにパスワードをかけて学会ホームページ上に置き、会員のみにパスワードを会誌発送時に同封する方式とすることにした。
- 会員名簿を編集・発行した。

1-2. 広報・渉外

- ニュースレター59号を編集、刊行した。
- マーリングリストによる情報配信を適宜行った。
- ホームページの保守管理および更新を行った。
- 会誌「植生史研究」第29巻2号までを学会ホームページにて公開した。
- フォロワーの機能について個人情報保護の観点から廃止することにした。

2023年度決算報告（2022年10月1日～2023年9月30日）

取入	2023年度予算	2023年度決算	
一般・シニア・学生会員会費	1,662,000	1,671,000	一般会員 6,000円×252件、シニア会員 3,000円×32件、学生会員 3,000円×21件
団体・賛助会員会費	52,000	52,000	団体会員 8,000円×4件、賛助会員 20,000円×1件
会誌売上（特別号含む）	2,000	3,400	2冊（送料 400円込み）
利息	10	39	4月19円 10月20円
大会準備金余剰金	0	27,000	第37回奈良大会分
学術著作権	90,000	108,764	
小計	1,806,010	1,862,203	
前年度繰越金	5,117,180	5,117,180	
合計	6,923,190	6,979,383	
<hr/>			
支出			
学会事務委託経費			
基本業務委託	450,000	434,984	会員管理 231,840円、受付業務 120,000円、バックナンバー保管料 3,600円等
発送等手数料	100,000	172,363	学会誌発送手数料 32,415円、会費請求 2回 121,581円、メーリングリスト管理配信 15,125円等
委託業務経費実費分			
郵送費	70,000	71,870	会誌郵送 62,904円、宅配メール便 8,966円
印刷費	10,000	0	ニュースレター 1回分：印刷なし
封筒・封筒印刷費	25,000	45,100	角2(1000部)
コピー代	10,000	21,368	
名簿作成費			
作業費	65,000	77,000	会員 306名分調査票作成・データ修正・編集等一式
名簿編集	55,000		
選挙費（会長・評議員）			
投票用紙製作・発送費	155,000	119,958	会員 288名分（製作 300部）
会誌印刷費			
会誌印刷費	1,200,000	835,450	第31巻1-2号 542,850円、第32巻1号 292,600円
大会費			
2024年度大会準備金	100,000	100,000	2024年度鹿児島大会準備金
事務経費			
郵送費	3,000	8,780	会誌移動郵送費等
一般事務経費	3,000	4,950	文房具、銀行振込み手数料等
広報・HP管理	10,000	9,550	サーバー 5,238円／ドメイン 4,312円契約料
J-STAGE登録	5,000	0	入力作業アルバイト代（500円／件）等：担当会員が入力
幹事会など会議等			
旅費	25,000	0	会計監査旅費、自然史学会連合出張旅費：オンライン会議のため支出なし
自然史学会連合分担金			
行事費			
オンライン経費	5,000	0	（オンライン研修等 Zoom 契約料）：対面式で実施
講師謝金	30,000	0	談話会・巡検等：花粉学会と共に開催の奈良大会運営費で支出
表彰関係			
学会賞副賞	30,000	0	該当者なし
賞受賞者懇親会招待	0	0	該当者なし
優秀発表賞関連経費	60,000	0	30,000円×2件：投稿者なし
国際会議等への参加助成	50,000	0	50,000円×1件：助成申請なし
予備費	100,000	100,000	2024年度鹿児島大会貸付金として支出
合計	2,581,000	2,021,373	
次年度繰越金	4,342,190	4,958,010	

別途会計	決算額		次年度繰越金
	収入	支出	
口座移行に伴う過不足金	809,472	0	809,472

1-3. 編集

- 会誌「植生史研究」第31巻1・2号（合併号）、第32巻1号を編集、刊行した。
- 会誌「植生史研究」第29巻2号までをJ-STAGEにて公開した。

1-4. 行事

- 第37回日本植生史学会大会を2022年10月1日～10月3日に奈良文化財研究所平城宮跡資料館（奈良県奈良市）を日本花粉学会第63回大会と合同でTeamsによるハイブリッド方式にて開催した。参加者は公開シン

ポジウム75名（会員のみ）、一般研究発表17名、ポスター発表6名であった。大会実行委員長：星野安治、大会実行委員：山崎 健、庄田慎矢、西原和代、浦 蓉子、上中央子、前田仁暉、真邊 彩、池田浩己、伊藤由紀子、林 竜馬。

2) 第50回談話会を2022年10月3日に開催した。テーマは「春日山原始林」とし、参加者は約25名であった。案内人：前迫ゆり、世話人：上中央子、星野安治、浦 蓉子、真邊 彩、林 竜馬。

3) 第38回日本植生史学会大会を、日本花粉学会第64回大会と合同で、2023年12月2日・3日に鹿児島大学（鹿児島市）にて開催するべく準備した。

2. 2023年度決算報告、会計監査報告（別紙決算案）、別途会計について

2023年度の決算が報告され、半田久美子会計監査より適正に処理されていたことが報告された。別途会計について収入が合わない現状と経緯を、山川第13期会計幹事が説明した後、佐々木第14期会計幹事よりスライドを用いてその要因について補足説明がなされた。

3. 第7回論文賞および第6回学会賞

第6回学会賞は4月末日の締切を過ぎても応募がなかつたため、該当なしとなった。また、日本植生史学会表彰規程に則って、第7回論文賞審査委員会（中山誠二委員長、百原 新委員、江口誠一委員、那須浩郎委員、矢部 淳委員）を設置し、審査を行った。その結果、審査委員会は第7回日本植生史学会論文賞を、「植生史研究」第29巻1号の原著論文「Diversity of temperate flora at the Tado site, central Japan, during the last glacial stage, reconstructed from the Dr. Shigeru Miki collection (三木茂博士採集の三重県多度産標本から復元した最終氷期の温帯性フロラの多様性)」（百原 新・工藤雄一郎・三宅 尚・中村俊夫・門叶冬樹・塚腰 実）に決定した。

授賞理由：本論文は、博物館に収蔵されているコレクションを用いて、年代測定、大型植物遺体分析、花粉分析を組み合わせて再検討を行い、最終氷期の多度川流域の植生を明らかにした。特に標本の多くを初めて図示し、同定の根拠を含めた論考を英文で掲載している点で、国際的な研究論文として価値が高い。また、すでに収蔵されている博物館標本の有効性を示した点も評価される。以上の点から、当論文は植生史研究に大きく貢献するものとして、論文賞候補に値する。

4. 第8回優秀発表賞

日本植生史学会表彰規程に則って、第8回優秀発表賞審

査委員会（江口誠一委員長、能城修一委員、那須浩郎委員、百原 新委員、矢部 淳委員、星野安治委員）を設置し、審査を行った。その結果、第37回大会の第8回日本植生史学会優秀発表賞は次の2件の発表に決定した。

- 1) 早川万穂・池田雅志・沢田 健・高嶋礼詩・西 弘嗣・中村英人「北海道苦前地域・蝦夷層群羽幌川層における花粉分析に基づく後期白亜紀の古植生変動復元」
- 2) 池田 駿・百原 新「本州中部の上部中新統より産する絶滅属 *Protosequoia* の分類の再検討」

5. 会員の除名

会則第4条hに則り、会費の長期滞納により7名の会員について、2023年12月15日までに納入がない場合は除名することとした。

6. 自然史学会連合活動報告

- 1) 第3回運営委員会：2022年12月4日開催
- 2) 2022年度自然史学会連合総会：2022年12月4日（オンライン開催）
- 3) 国際生物科学連合総会（34th IUBS GA, 中央大学, 3月9日～12日開催予定）の後援
- 4) 第4回運営委員会：2023年3月27日
- 5) 第1回運営委員会：2023年6月4日
- 6) 2023年度自然史学会連合総会：2023年6月4日（オンライン開催）
- 7) 第1回運営委員会：2023年11月16日
- 8) 2nd Asian Palaeontological Congress (APC2, 第2回アジア古生物学会議, 8月, 東大本郷キャンパス開催) の後援
- 9) 東京大学大気海洋研究所共同利用研究集会「水族館とは？日本の水族館を考える」（12月4日・5日開催）の後援

II. 審議事項

1. 2024年度事業計画

以下の点が、賛成多数で承認された。

1-1. 庶務

- 1) 2024年度評議員会を2023年12月1日にZoomによるオンライン方式にて、総会を2023年12月2日に鹿児島大学にて開催する。
- 2) 第9回優秀発表賞の選定を行う。
- 3) 第14回奨励賞の選定を行う。
- 4) 幹事会を3回程度開催する。
- 5) 学会事務委託の契約更新を行う。

2024年度予算案（2023年10月1日～2024年9月30日）

取 入	2024年度予算
一般・シニア・学生会員会費	1,587,000
団体・賛助会員会費	44,000
会誌売上（特別号含む）	3,000
利息	30
大会準備金余剰金	100,000
学術著作権	100,000
小計	1,834,030
前年度繰越金	4,958,010
合計	6,792,040

支
出

学会事務委託経費	
基本業務委託	410,000
発送等手数料	175,000
委託業務経費実費分	
郵送費	120,000
ニュースレター印刷費	10,000
封筒・封筒印刷費	100,000
コピー代	30,000
会誌印刷費	
会誌印刷費	1,050,000
大会費	
2025年度大会準備金	100,000
2025年度大会貸付金	100,000
事務経費	
郵送費	10,000
一般事務経費	3,000
広報・HP管理	10,000
J-STAGE	5,000
別途会計解消WG	50,000
幹事会など会議等	
旅費	25,000
自然史学会連合分担金	
旅費	20,000
行事費	
オンライン経費	5,000
講師謝金	30,000
表彰関係	
奨励賞副賞	30,000
賞受賞者懇親会招待	10,000
優秀発表賞関連経費	60,000
国際会議等への参加助成	140,000
予備費	100,000
合計	2,593,000
次年度繰越金	4,199,040

別途会計	予算額		
	収入	支出	
口座移行に伴う過不足金	809,472	0	809,472

1-2. 広報・渉外

- 1) メーリングリストによる情報発信を適宜行う。
- 2) ニュースレターを編集・刊行し、配信はメーリングリストを中心に行う。
- 3) ホームページの保守管理および更新を行う。
- 4) 会誌「植生史研究」PDFを学会ホームページにて公開する。

1-3. 編集

- 1) 会誌「植生史研究」を編集し、第32巻2号、第33巻1号、2号を刊行する。
- 2) 会誌「植生史研究」PDFをJ-Stageにて公開する。

1-4. 行事

- 1) 第38回日本植生史学会大会を2023年12月2日・3日に鹿児島大学（鹿児島市）にて日本花粉学会第64

回大会と合同で開催する。大会実行委員長：吉田明弘、大会実行委員：中村直子、大西智和、浦 蓉子、真邊 彩、三宅 尚、林 竜馬。

2) 第51回談話会を2023年12月4日に指宿市で開催する。テーマは『南薩の火山と植生』。

3) 第39回日本植生史学会大会を2024年12月に学習院女子大学（東京都）において開催するべく準備する。

4) 第52回談話会（2024年度時期未定）を山梨県または国立科学博物館、第53回談話会（2024年度時期未定）を対面方式にて開催するべく準備する。

1-5. 会計

別途会計について複数人でWGを組織して検討を行う。

2. 会計監査の選出

2024-2025年度会計監査を井上 淳氏が担当することが確認された。

3. 内規の改正

以下について、賛成多数で承認された。賞関係の内規の改正は、総会ではなく評議員会での承認で行うことができるよう改訂し、会員の特典や広告掲載に関わる内規は総会の承認を得るものとしたい。さらに、従来の内規では手続きに関する条文が不統一のため、以下のように表現を統一する。

1) 改正手続きの記載がない内規（「学会賞に関する内規」および「論文賞に関する内規」）

「本内規の改正は評議員会の承認を得るものとする。」を追加。

2) 「奨励賞に関する内規」および「優秀発表賞に関する内規」
「本内規の改正は総会の承認を得るものとする。」の条文を総会→評議員会に修正。

3) 「賛助会員に関する内規」、「広告の掲載に関する内規」
「本内規の改正は総会の承認を得るものとする。」を追加。

4. バックナンバーの在庫管理とHPでの表示について

以下について、賛成多数で承認された。バックナンバー在庫について、永久保存分各2冊とし、その他については機関への寄贈や大会での配付を実施などをして有効活用を図りつつ、在庫数を減らす。またこれに伴い、HPでの在庫数の表示を無くす方向に改める。

5. 学会関係資料のアーカイブ化について

以下について、賛成多数で承認された。紙書類を仕分けし、会員名簿や学術刊行物の登録など会の歴史や会員の顕彰に関わる一次資料を「永久保存」または「デジタル化し

て保存」にするなど、重要性を複数の立場から検討したうえで保存期間・保存方法を検討し、個人情報を含むものはシュレッダーで裁断するなど、留意のうえで適切に廃棄を進める。

6. 2024年度予算案

2024年度予算案について賛成多数で承認された。

7. その他

高原会員より、国際会議への若手会員への参加助成の増額について賛同するとともにIPC/IOPCの応募が始まっていることから、速やかに進めてほしい旨の希望があった。

会員動向（2022年10月～2024年1月）

新入会員（敬称略）

水谷友紀（一般）

水村直人（一般）鳥取県地域づくり推進部文化財局

佐藤駿輝（学生）中央大学

岡本拓樹（学生）千葉大学大学院

臼杵達也（学生）大阪公立大学大学院

田畠和嵩（学生）千葉大学

林 忻（学生）東京学芸大学院

渡邊小友和（学生）千葉大学

山中俊樹（一般）都城市教育委員会

金子悠人（一般）石岡市教育委員会

小泉翔太（一般）奈良県立橿原考古学研究所

松崎大嗣（一般）指宿市教育委員会

大宮航汰（学生）福島大学

酒井和也（学生）鹿児島大学

坂本 匠（学生）京都大学大学院

退会会員（敬称略）

池田 博、岩永哲夫、内山 隆、遠藤邦彦、王 雨晴（学生）、大木さおり、小川浩一、勝山百合、小島夏彦、小林加奈、近藤鍊三、下野真理子、田中徳久、千田寛之、藤間

剛、中静 透、長谷義隆、南木睦彦、Mechtild Mertz、森 勇一、山口 徹、山本浩久、湯本貴和、長嶺 勝、中山悠那（学生）、高嶋 恵（学生）、畠田香音（学生）、岐阜県立森林文化アカデミー（団体会員）、全国大学生活協同組合連合会（団体会員）

第14期日本植生史学会役員

（任期：2023年10月1日～2025年9月30日）

会長：百原 新

評議員：江口誠一、佐々木由香、那須浩郎

会計監査：井上 淳

幹事：上條信彦（庶務），佐々木尚子（会計），渋谷綾子（広報・渉外）
編集委員会：吉田明弘（委員長），大山幹成（副委員長）
行事委員会：浦 蓉子（委員長），柳原麻子（副委員長）
自然史学会連合担当：藤井伸二

各種連絡先

入会・異動・退会・購読の申し込み
(バックナンバー購入，メーリングリストアドレス登録・変更，メーリングリストへの投稿記事)
〒169-0072 東京都新宿区大久保2-4-12
新宿ラムダックスビル
(株)春恒社 学会事業部内 日本植生史学会事務局
TEL 03-5291-6231 FAX 03-5291-2176
E-Mail: hisbot-office01@shunkosha.com

その他の連絡先は，以下の通りです。

連絡・問い合わせ，転載許可申請，シニア会員申請
庶務幹事 上條信彦
〒036-8560 弘前市文京町1番地
弘前大学人文社会科学部
Tel: 0172-39-3273 Fax: 0172-39-3273
E-mail: hbmain@hisbot.jp

雑誌投稿に関する問い合わせ，企業広告送付先
編集委員長 吉田明弘
E-mail: hbjournal@hisbot.jp

ホームページや企業広告に関する問い合わせ
広報・渉外幹事 渋谷綾子
E-mail: hbnews@hisbot.jp

査読者への謝辞

植生史研究第32巻に投稿された論文等は下記の方々に査読していただきました。記して御礼申し上げます。

井上 淳 能城修一 矢部 淳 吉田明弘
西内李佳 三宅 尚 山川千代美 米林 伸